

橋渡し研究プログラム 異分野融合型研究開発推進支援事業 令和7年度 公募説明会

令和7年1月7日

※お手元に公募要領、提案書様式等をご準備ください。

シーズ開発・研究基盤事業部
拠点研究事業課

国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）

～はじめに～ 公募にかかる背景・方針

- ① 橋渡し研究戦略的推進プログラムにおいて「異分野融合型研究開発推進支援事業」は試行的な取組として実施し、令和1～3年度採択された4機関（東北大，慶應大，京都大，大阪大），橋渡し研究プログラムにおいて令和4～6年度採択された5機関（東北大，慶應大，京都大，大阪大，九州大）は各機関の独自の取組や工夫を通して効果的な支援を実施してきました。
- ② 一方で，文部科学省の橋渡し研究支援機関の認定においては，異分野融合型シーズの支援機能も認定における指標の一つとしており，全機関がその機能を有するとされています。
- ③ これらの状況を鑑み，本公募においては，橋渡し研究支援機関の特長を活かして，より早期の段階から異分野融合型のシーズを発掘するとともに有望なシーズの選定と育成に積極的に取組み，本事業を通して現状よりも優れた支援機能を発揮する機関を選定することとします。

橋渡し研究プログラム異分野融合型研究開発推進支援事業は、医療実用化を目指した広範なシーズの育成や、医学・歯学・薬学系以外の先端技術・知識を利活用することで、医療イノベーションを推進することを目的として、異分野融合型研究開発シーズの研究開発支援を実施します。

本事業では、認定された橋渡し研究支援機関のうち、公募により、優れた異分野融合型研究開発シーズの支援を実施する機関に補助金を交付します。採択された橋渡し研究支援機関は、医歯薬系以外の異分野領域から医療応用に向けて開発するシーズをより早期の段階から発掘・選定し、補助事業費の総額の範囲内でシーズ研究開発費を配分しシーズの育成を行うとともに、医療応用に向けたセミナー・シンポジウム等を実施します。これらの取組を通して、異分野融合型研究開発シーズの早期支援強化を図るとともに、橋渡し研究支援の質の向上を目標としています。

橋渡し研究プログラム 異分野融合型研究開発推進支援事業 令和7年度公募



補助事業費の規模・事業期間・採択課題予定数等（公募要領 p.7）

- 1補助事業課題あたりの予算規模 **年間45,000千円上限**（一般管理費除く）
- 補助事業実施期間 令和7年度～令和9年度
- 新規採択補助事業課題予定数 0～5課題程度
- 応募資格者※ 文部科学省が認定した橋渡し研究支援機関の拠点長

●注意事項（一部抜粋）

- （1）補助事業費の規模等は、申請額がそのまま認められることを確約するものではありません。
- （2）申請額が課題申請時に規定されていた予算上限を超えていた場合は不受理とします。
- （3）補助事業費の規模及び新規採択課題予定数等は、予算状況等により変動することがあります。大きな変動があった場合には、全部又は一部の公募事業課題について提案書類の受付や課題の採択を取りやめる可能性があります。

（公募要領 p. 9）

※**応募資格者**については、公募要領 p.14の「3.1 応募資格者」をご確認ください。

橋渡し研究プログラム 異分野融合型研究開発推進支援事業 令和7年度公募



採択された橋渡し研究支援機関が実施する内容（公募要領 p. 11~12）

- 有望な異分野融合型研究開発シーズの発掘・選定
- 異分野融合型研究開発シーズの育成支援（研究開発のプロセスマネジメント）
- 異分野領域から医療応用を目指す上で必要となる情報や環境の提供等（セミナー等の開催）
- 橋渡し支援研究機関の異分野融合研究支援にかかるノウハウ共有
- 事業の進捗管理、成果の発信、外部機関への支援、AMED・文科省との情報共有等

求められる成果（公募要領 p. 12）

橋渡し研究支援機関において異分野融合型研究開発シーズを**発掘・選定・育成**することにより、**有望な研究開発や優れた研究者の発掘、研究開発の前進と質の向上、研究者の意欲向上につながる**ことが求められます。また、**本事業の特性に鑑み、支援を行う上で得られた技術的な限界・ノウハウ・失敗した要因等にかかる知見、副次的な成果の創出、科学的・社会的な波及効果についても、積極的に成果として評価**します。

採択された橋渡し研究支援機関が実施する内容

(公募要領 p. 11)



(a) 有望な異分野融合型研究開発シーズの発掘・選定

橋渡し研究支援機関は、異分野融合型研究開発シーズを支援機関内外から広く募り、公平性かつ透明性が確保された採択決定体制を構築し、評価項目や採択基準を明確にした上でシーズの選定を行います。

※なお、橋渡し研究支援機関が設置する評価委員会等でのシーズの選定（採択）においては、以下の点に留意するようにしてください。

- 少なくとも年度に1回は評価を行い、支援するシーズを選定すること
- 本事業は、研究開発早期段階のシーズを支援するものであること
- 異分野融合型研究開発シーズの代表者は医学・歯学・薬学系所属以外とすること
- 「医工学」「生体防御医学」等の融合組織の所属者を支援対象とすることは可能。
ただし、本事業の趣旨である異分野融合の観点を吟味すること

採択された橋渡し研究支援機関が実施する内容

(公募要領 p. 11-12)



(b) 異分野融合型研究開発シーズの育成支援 (研究開発のプロセスマネジメント)

選定された異分野融合型研究開発シーズについて本補助事業における研究開発課題として育成支援を行います。具体的には、研究開発の具体的計画の策定、明確な目標設定や課題抽出など、医療実用化を目指す上での適切な研究開発のプロセスマネジメントを行うとともに、補助事業費より研究開発費を配分します。1課題あたり10,000千円程度/年度を上限とします。なお、支援（配分）の期間は原則1年度のみとしてください。ただし、評価を行った結果、継続して同一のシーズを支援することは可能とします。

また、採択後の異分野融合型研究開発シーズ支援において下記を実施することが求められます。

- 要素技術の原理確認
- シーズのステージアップや実用化に関する他研究費事業への応募の促進

採択された橋渡し研究支援機関が実施する内容

(公募要領 p. 11-12)



(b) 異分野融合型研究開発シーズの育成支援 (研究開発のプロセスマネジメント)

シーズ研究開発者と橋渡し研究支援機関との間で十分に検討した上で下記の支援を実施することが求められます。特に、企業との議論や連携においては、シーズ開発の妨げとならぬよう、個別のシーズの特徴や将来展望、競合について十分なリサーチ、戦略立案のもと、留意して対応するようにしてください。

- 企業との情報交換の場の設定等による企業との議論の開始
- 企業と連携した上での特許出願・特許網構築
- 先端技術が社会的に受け入れられるための技術アセスメントや研究への患者・市民参画（PPI）の観点も加えながらのELSI（倫理的・社会的・法的課題）、ガイドライン提言等への取組の開始

採択された橋渡し研究支援機関が実施する内容

(公募要領 p. 12)



(c) 異分野領域から医療応用を目指す上で必要となる情報や環境の提供等 (セミナー等の開催)

橋渡し研究支援機関内外における多くの異分野領域の研究者が自らのシーズを医療応用に向けて研究を開始し、医療分野の研究者や企業との連携を行うために必要な情報や環境の提供（橋渡し研究支援機関の有効な活用方法や医療分野の研究開発の進め方に関するセミナー等）を行います。各種パートナーリング、成果の発信、分野間交流の環境構築のため、成果発表や情報交換の場を年度に1回開催することが望ましいです。



これらの取組によって、異分野領域研究者や支援機関ともに医療応用研究に関わる人材が分野特有の研究開発推進にかかるノウハウ等を獲得することで、橋渡し研究支援機関による画期的な異分野融合型研究シーズの発掘の幅が広がり、より早期の段階から優れたシーズの選定や育成が可能になるなど、さらなる支援の質の向上につなげていくことが求められます。

採択された橋渡し研究支援機関が実施する内容

(公募要領 p. 12)



(d) 異分野融合研究支援かかるノウハウ共有

採択された橋渡し研究支援機関は、異分野融合研究の支援について[他の支援機関とノウハウを共有](#)し、文部科学省により認定された橋渡し支援研究機関全体の支援ノウハウの向上に寄与することが求められます。

(e) 事業の進捗管理、成果の発信、外部機関への支援、AMED、文部科学省との情報共有等

橋渡し研究支援機関は、実施内容にかかる進捗状況の確認、成果の取りまとめ、成果の発信及び事業の運営管理に必要な連絡調整等を行います。また、AMEDの指示に従い、革新的医療技術創出拠点の行事等への参加、協力、会議等での成果発表や情報共有が求められます。採択された橋渡し研究支援機関内でのシーズに限定せず、支援機関外のシーズについても積極的に支援を行うことが求められます。なお、[シーズ選定に係る評価会や本事業の成果とするシンポジウム・セミナー・コンサルテーション等のイベントについては文部科学省やAMED（PS、POを含む）が陪席](#)いたします。開催決定後速やかにAMEDへの事前連絡をお願いします。

経費について（全体）

（公募要領 p. 42）



	大項目	定義
事業費	物品費	補助事業用設備・備品・試作品、ソフトウェア（既製品）、書籍購入費、研究用試薬・材料・消耗品の購入費用
	旅費	補助事業参加者に係る旅費、外部専門家等の招聘対象者に係る旅費、臨床研究等における被験者及び介助者に係る旅費
	人件費・謝金	人件費：当該補助事業のために雇用する研究員等の人件費 謝金：講演依頼、指導・助言、被験者、通訳・翻訳、単純労働等の謝金等の経費
	その他	上記のほか、当該補助事業を遂行するための経費 例） 研究成果発表費用（論文投稿料、論文別刷費用、ウェブサイト作成費用等）、会議費、運搬費、機器リース費用、機器修理費用、印刷費、外注費（試験・検査業務・動物飼育業務等で、外注して実施する役務に係る経費）、ライセンス料、不課税取引等に係る消費税相当額等
一般管理費 ※2、※3	事業費に対して一定比率（10%上限）で手当され、一般管理業務に必要な経費として研究機関が使用する経費	
委託費	補助事業の一部を第三者に委託する経費 委託先に対しては 10%までを上限に、間接経費を計上することが出来ます（委託費＝直接経費＋間接経費）	

本事業では、競争的研究費において共通して使用することになっている府省共通経費取扱区分表に基づき、以下のとおり費目構成を設定しています。詳細はAMEDの「補助事業事務処理説明書」を参照してください。

事業費

一般管理費

委託費

シーズ研究費
はここに入る

経費について（シーズ研究費）

（公募要領 p.13）



異分野融合型研究開発シーズ**1課題当たり**のシーズ研究開発費（橋渡し研究支援機関にて選定されたシーズ課題の研究開発委託費）は、**10,000 千円程度/年度を上限**とします。支援するシーズの課題数に制限はありませんが、橋渡し研究支援機関の内外を問わず、シーズ研究開発費の総額は補助事業費（事業費）の上限まで計上することができます。

なお、異分野融合型研究開発シーズの研究開発費の使途は、主に以下の内容とします。

- 研究遂行のための研究費（消耗品費等）
- 研究開発代表者と橋渡し研究支援機関との協議を行い、目標とスケジュールについて合意するための費用（交通費等）
- 研究成果展開の検討に必要な競合特許調査等に要する費用（委託費等）

橋渡し研究支援機関が**異分野融合型研究開発シーズを開発支援するために必要な費用**については、異分野融合型研究開発シーズの直接経費から徴収し、**事業費に計上することが可能**ですが、直接経費からの徴収であることに鑑み、支援に直接必要な経費を料金規程等に基づき算定してください。異分野融合型研究開発シーズ支援に関する固定経費（シーズ発掘・評価や橋渡し研究支援機関が支援するシーズとしてBRIDGE登録に係る経費、研修セミナー、パートナリングイベント、報告会の開催等に係る費用等）についても計上可としますが、**提案書（計画書）に実施内容を具体的に記載**するようにしてください。橋渡し支援研究機関の基盤整備等に用いることはできませんので、ご注意ください。

審査項目と観点

(公募要領 p.26~27)



①事業趣旨、目標等との整合性

- ・事業趣旨、目標等に合致しているか

②科学的・技術的・社会的な意義及び優位性

- ・ **独創性、新規性**を有する異分野融合型研究開発シーズの発掘・選定・育成を行う上での支援機能や方法論は優れているか
- ・ **社会的二一ズ**へ対応する異分野融合型研究開発シーズの発掘・選定・育成を行う上での支援機能や方法論は優れているか
- ・ **医療分野の進展**に資する異分野融合型研究開発シーズの発掘・選定・育成を行う上での支援機能や方法論は優れているか
- ・ **医療分野の研究開発に関する国の方針に合致する**異分野融合型研究シーズの発掘・選定・育成を行う上での支援機能や方法論は優れているか

審査項目と観点

(公募要領 p.26~27)



③計画の妥当性

- ・ **新技術の創出に資する**異分野融合型研究シーズの発掘・選定・育成を行う上での支援機能や方法論は優れているか
- ・ 橋渡し研究支援**機関の特長を活かした支援戦略**が立案されており、適切なマイルストーンが設定されているか
- ・ 異分野融合型研究開発シーズの発掘・選定にあたり、その対象及び方法は、**具体的かつ適切**であり、**独創的で有望な優れた研究開発・研究者の発掘につながる**ようなものか
- ・ 異分野融合型研究開発シーズの育成にあたり、支援計画や実用化戦略の策定方法は適切であり、**研究開発の前進や質の向上が可能となる**ようなものか
- ・ 支援実施にあたり、具体的な計画策定、明確な目標設定、課題抽出のために橋渡し研究支援機関が必要と考える**プロセスマネジメントは適切**か
- ・ 支援実施にあたり、**要素技術の原理確認、シーズのステージアップや医療実用化に関する他研究費事業への応募へ向けた支援が可能な計画**となっているか
- ・ 異分野融合型研究開発シーズの優位性や知財を配慮した形で**企業との対話や連携を進められる計画**となっているか
- ・ 異分野融合型研究開発シーズの特徴を捉え、必要に応じて先端技術が社会に受け入れられるための**技術アセスメント・ELSI・ガイドライン提言等への取組が可能な計画**となっているか
- ・ 生命倫理、安全対策に対する法令等を遵守した計画となっているか

審査項目と観点

(公募要領 p.26~27)



④実施体制

- ・ 補助事業代表者（拠点長）を中心とした事業実施体制が適切に組織され、拠点長のマネジメント力が十分に発揮される実施体制となっているか
- ・ 成果の最大化に向けて、**異分野連携のためのマッチングなど有機的連携が促進される体制**となっているか
- ・ これまでの橋渡し研究支援実績は十分にあり、**異分野融合型研究開発シーズの支援注力に向けた体制が整備され、より効果的な支援（発掘・選定・育成）を実施できるもの**となっているか
- ・ **申請者等のエフォートは適当であるか**

⑤所要経費

- ・ 経費の内訳（個別シーズに対する支援にかかる経費を含む）、支出計画等は妥当であるか

⑥事業で定める項目及び総合的に勘案すべき項目

- ・ 異分野領域の研究者が医療応用分野を目指す上で**必要なノウハウや情報が得られるよう、具体的かつ効果的な取組が計画**され、研究者の意欲向上に繋がるものとなっているか
- ・ 技術的な限界・ノウハウ・失敗した要因等の知見、副次的成果や波及効果について検証等を行い、**橋渡し研究支援機関における有効的な支援に結びつける仕組み**があるか

4.1.1 応募に必要な提案書類

No.	必須/任意	必要な提案書類	備考
1	必須	(様式1) 事業提案書	
2	該当する場合は 必須	承諾書	分担機関がある場合 (分担機関毎に作成)

提出先 : e-Rad

提出〆切 : 令和7年1月20日(月)【正午】

様式 1 事業提案書



＜構成＞

表紙

要約

1. 本課題実施の目的
2. 事業計画・方法
3. 事業終了後の将来展望
4. 補助事業代表者及び補助事業分担者に関する情報
5. 実施体制図
6. 補助事業の主なスケジュール
7. 各年度別経費内訳
8. 橋渡し研究支援機関における異分野融合型研究開発シーズ支援の実績
9. 研究費の応募・受入等の状況・エフォート
10. これまでに受けた研究費とその成果等
11. 本補助事業課題を実施する上で特に考慮すべき事項等

様式 1 事業提案書



表紙

補助事業課題名 (英語表記)		日本語表記	〇〇に関する研究開発
		英語表記	Study of 〇〇
公募名(事業名)		橋渡し研究プログラム (橋渡し研究支援プログラム 異分野)	
補助事業期間(全研究期間)		令和 XX 年 X 月 X 日 ~ 令和 X	
補助事業費総額		全事業期間での事業費総額 (X0.000 千円)(一般管理費含まず)	
ヒト全ゲノムシーケンス解析		☐ 実施する ☒ 実施しない	
補	氏 名	フリガナ	ヒト全ゲノムシーケンス解析は本事業では該当しないため、 「☒実施しない」にデフォルトでチェックを入れています
		漢 字	
		ローマ字表記	
	性 別	甲 ☐ 女 ☐ その他 ☐ 回答しなない ☐	

様式 1 事業提案書



2. 事業計画・方法

- 「1. 本課題実施の目的」に記載したことを達成するための具体的な事業研究計画及び方法について、公募要領「2.3.1(2)実施内容」に記載されている以下の1)～5)の内容を含め4,000字以内で記載してください。
 - 1) 有望な異分野融合型研究開発シーズの発掘・選定
 - 2) 異分野融合型研究開発シーズの育成支援、研究開発プロセスのマネジメント
 - 3) 異分野領域から医療応用を目指す上で必要となる情報や環境の提供等
 - 4) 橋渡し支援研究機関の異分野融合研究支援にかかるノウハウ共有
 - 5) 事業の進捗管理、成果の発信、外部機関への支援、AMED、文科省との情報共有等
- シーズの**発掘・選定・育成を実施する上で、申請機関の優位な点（特長）**とともに、**異分野融合型研究開発シーズの不確実性・成果発現までの長期性・予見不可能性等の特性を踏まえた上での工夫や取組**について、1,000字以内で記載してください。
- 事業計画を遂行するための体制について、「補助事業代表者」、「補助事業分担者」及び補助事業協力者等の具体的な役割を明確に記載してください。
- 橋渡し研究支援機関の長のマネジメントについて、成果の最大化、ステークホルダーとの有機的な連携、安全保障貿易管理（海外への技術漏洩）に対する組織的な対応の観点から、具体的に500字以内で記載してください。

様式 1 事業提案書



5. 実施体制図

■ 代表機関、分担機関の組織（所属機関と主たる事業実施場所が異なる場合については、主たる事業実施場所についても記載）、体制、連携、協力体制等について体制図を記載してください。各機関の役割がわかるように記載してください。また、補助事業課題の運営・推進及び進捗管理等の体制や方法について記載してください。

- **補助事業代表者は、橋渡し研究支援機関の拠点長となります。**
- **異分野融合型研究開発シーズの研究費を支出できるのは、補助事業代表機関のみです。**
- **詳細は「Ⅱ-5.2.1 代表機関と分担機関の役割等」を参照ください。**

【体制図記載例】

角丸四角形：大学等

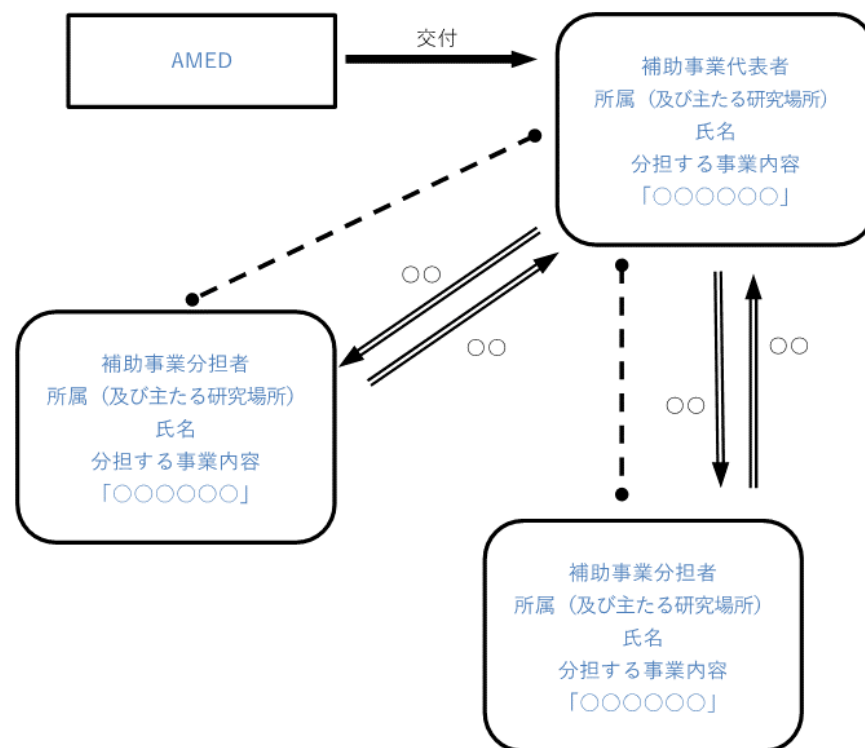
楕円：企業

長方形：AMED

点線矢印：契約

一重矢印線：交付

二重矢印線：情報等のやり取り、分担



様式 1 事業提案書



7.各年度別経費内訳

(単位:千円)

大項目	中項目	R7 年度	R8 年度	R9 年度	計
委託費 (分担機関)					
委託費 (異分野融合型研究開発支援費)					
合 計					

分担機関がある場合の委託費、
支援シーズに配分する委託費、
をそれぞれ記載してください

機関別経費(一般管理費を含めた合計額)※分担機関がある場合は記載ください。(単位:千円)

種別	機関名	R7 年度	R8 年度	R9 年度	計
代表					
分担1					
...					
合計					

分担機関がある場合は、機関別
の経費を記載してください

様式 1 事業提案書



7.各年度別経費内訳

【委託費(異分野融合型研究開発支援費)】※採択後、必要に応じて研究内容・支援内容等の提出を求めます

支出年度	研究課題名(予定)	代表研究者・所属(予定)	合計(千円)
R7 年度	次世代ゲノム編集ツール	氏名・〇〇大 農学部	10,000
	極限制御による新規診断機器	氏名・〇〇大 工学部	3,700
	異分野シーズ A(未定)	(未定)	5,000
	異分野シーズ B(未定)	(未定)	5,000
	異分野シーズ C(未定)	(未定)	5,000
	異分野シーズ D(未定)	(未定)	10,000
			(計)38,700
R8 年度	支援シーズへの配分予定の詳細を記載してください		
R9 年度			

支援シーズへの配分予定の詳細を記載してください

様式 1 事業提案書



8. 橋渡し研究支援機関における異分野融合型研究開発シーズ支援の実績

■ 橋渡し研究支援機関における（異分野融合型研究開発シーズを含む）橋渡し研究シーズの「発掘」「選定」「育成」の活動内容（令和4～6年度）について、発掘に関して実施した支援機関の業務（**セミナー、マッチングイベント等**）、支援機関におけるステージ別の数、分野、ステージアップ数を表内に記入してください。

(1) 橋渡し研究支援機関における異分野融合型研究シーズ支援の実績(令和4年度～令和6年度)

①「発掘」に関して実施した支援機関業務(セミナー、マッチングイベント等)

(訪問、Web 会議、説明会、個別相談会、シンポジウム等の日時、場所、概要と参加者数がわかるよう記載をお願い致します。必要な数だけテーブルを増やして下さい。)

#1	日時	令和4年8月4日 18:00～19:00	場所	Web 会議
	名称	第1回橋渡し研究シーズ公募説明会		
	概要	橋渡し研究戦略的推進プログラム事業における令和4年度のシーズ研究課題募集に関する説明(個別相談有)		
	参加者数	〇〇名(学内 XX 名, 拠点外機関研究者等 XX 名, その他 X 名)		

様式 1 事業提案書



8. 橋渡し研究支援機関における異分野融合型研究開発シーズ支援の実績

■ 橋渡し研究支援機関における（異分野融合型研究開発シーズを含む）橋渡し研究シーズの「発掘」「選定」「育成」の活動内容（令和4～6年度）について、発掘に関して実施した支援機関の業務（セミナー、マッチングイベント等）、支援機関における**ステージ別の数、分野、ステージアップ数**を表内に記入してください。

② 支援機関におけるステージ別の数とその分野、特筆すべき育成の成果など

	令和 4 年度 (令和 5 年 3 月 31 日時点)	令和 5 年度 (令和 6 年 3 月 31 日時点)	令和 6 年度 (令和 6 年 12 月 31 日時点)
異分野融合型 研究シーズ数	注 ¹ A10、B3、C1 (工学 8、農学 1、理学 4、 情報学 1)		
支援シーズ総数 [医療分野、異分野合計]	注 ² 200		
ステージアップ したシーズ数 [異分野シーズの内]			

- ・BRIDGE登録されているシーズをカウントしてください
- ・令和6年度の欄は12月31日時点までの成果を記載してください

8. 橋渡し研究支援機関における異分野融合型研究開発シーズ支援の実績

- **特筆すべき育成成果**（支援したシーズの当該プログラム以外のファンド採択、企業との連携や特許網の構築等）について800字以内で記入してください。
- 異分野融合型研究開発シーズやシーズAなど基礎段階のシーズ開発支援を行う中で、異分野融合や医療応用を目指すとの観点から**どのような課題（困難さ）があり、どのように解決を図ってきたのか、これまでの支援における工夫や取組の実績**を記載してください。また、**今後もより効果的な支援を可能とするために、この先の取組**について記載して下さい。1,000字以内で端的に記載してください。

承諾書



- ・分担機関がある場合に提出必須
- ・代表機関に所属する補助事業分担者については提出不要

令和 年 月 日

承 諾 書

(補助事業代表者の所属機関・職名)

(補助事業代表者の氏名) 殿

(補助事業分担者の所属機関・職名)

(所属長の氏名) 公印

「橋渡し研究プログラム(橋渡し研究支援プログラム 異分野融合型研究開発推進支援事業)」の事業課題の募集に対し、当機関(研究所)の職員が、下記により応募することを承諾いたします。

公募スケジュール

(公募要領 p.10)



提案書類受付期間	令和6年12月27日（金）～ 令和7年1月20日（月）【正午】（厳守）
書面審査	令和7年1月下旬～令和7年2月上旬（予定）
ヒアリング審査	令和7年2月19日（水）午後
採択可否の通知	令和7年3月下旬（予定）
事業開始日 （交付決定日）	令和7年4月22日（火）（予定）

- ◆ 全ての提案書類について、期限を過ぎた場合には一切受理できませんので注意してください。
- ◆ 提出書類に不備がある場合は、不受理となる場合があります。